



## 駐車場コラム



### ■ 駐車需要は派生的需要

日本大学理工学部交通システム工学科 教授 小早川 悟

駐車場は自動車を止める場所であり、自動車のトリップエンド(自動車の目的地)となっていますが、人々の最終的な目的地は駐車場ではないということが言われています。なにもない荒野の真ん中に駐車場があったとしても駐車する人はほとんどいないでしょう。しかし、そこにトイレや休憩施設が設置されていれば、休憩のために駐車する人はいるでしょう。その場合でも駐車すること自体が目的ではなく、その場所で休憩することが目的であり、別の目的を達成するために駐車をしていることとなります。

同じように、都心部にある駐車場でも、多くのドライバーは駐車場で自動車を駐車することが目的ではなく、自動車を駐車した後に最終的な目的地まで移動して、買い物やレジャーあるいは業務を行うために駐車をしています。

学問的な言葉を使うと駐車という行為は、派生的需要であると定義することができます。トイレに行きたい、買い物に行きたい、荷物を届けたいという本源的需要に派生して駐車という行為が発生しており、駐車需要は駐車場以外の様々な要因に影響を受けていることを示しています。

自動車の台数に対して駐車場が圧倒的に不足している状況であれば、不便な駐車場でも利用されるということになりますが、駐車場の整備が進んでくると駐車場を造っても利用されないという状況が発生します。そこで、駐車場の整備が進んできた近年は、駐車場をどこにでも造ればよいというものではなく、街づくりと連携して適正に配置していきましょうという考え方が重要になってきています。街づくりと連携した駐車場整備を実践していくためには、来訪者が利用したい場所に駐車場を造るのではなく、街としてどのような場所に駐車場を配置するのがよいかを考え、そこに利用者をどのように誘導していくのかを考えていく必要があるでしょう。そのためには、駐車需要をコントロールしていく必要があります。ただ単に駐車場を造ればよいのではなく、配置した駐車場までの自動車の経路はどうなっており、駐車場の出入口はどこに設置するのがよいのかといった検討や、駐車場から最終目的地となる場所までの歩行者の動線や経路を考え、それらの動線上の移動をいかに安全で快適に移動してもらうか、といったことを検討することで、都市として望ましい場所に設置した駐車場に利用者を誘導していくような考え方が必要となっています。また、場合によっては、鉄道やバス、さらには自転車(シェアサイクル)といった別の交通機関との連携も必要となってくるでしょう。

駐車場は、都市の重要なインフラ施設のひとつです。これからは、駐車需要を街づくりのなかでどのようにコントロールしていくか、その一つの装置としての役割が求められていくでしょう。